

# Editor's Choice



今月の編集部オススメのソフト&ハード

今月は人気メールソフト「ユードラ・プロ」の最新バージョンと、エプソンのデジタルカメラ「カラリオ Photo CP-100」、NECのISDN用TA（ターミナルアダプター）そしてLZHとZIPの展開ツール「Lhasa」だ。「ユードラ・プロ」のウィンドウズ版はメール文書中のURLをクリックするとWWWブラウザが自動的に立ち上がる機能を装備した。エプソンのデジタルカメラは低価格で高画質を実現。NECのTAもDSUが付いて非常に低価格だ。両ハードともにコストパフォーマンスが高いという点で注目される。また、「Lhasa」は、操作が簡単で初心者におすすめの展開ツールだ。

## 今月のラインナップ

定番電子メールソフト「ユードラ・プロ(Eudora PRO)」がバージョンアップ

**Eudora PRO for Windows Ver2.2-J**  
**Eudora PRO for Macintosh Ver2.1.4-J**

[発売元：クニリサーチインターナショナル]



画質の良さがウリのエプソンの低価格デジタルカメラ

**カラリオPhoto CP-100**

[発売元：セイコーエプソン]



DSU付きではもっとも低価格なターミナルアダプター

**Comstarz Plus PC Dash**

[発売元：日本電気(NEC)]



LZHとZIPに対応した圧縮ファイルの簡単自動展開ツール

**Lhasa**

[作者：竹村嘉人]



## このコーナーの見方

各製品に付いている記号の意味は以下のとおりです。

- |              |                 |        |                  |
|--------------|-----------------|--------|------------------|
| : ウィンドウズ95用  | : 市販のハードウェア製品   | : 動作環境 | : バージョン          |
| : ウィンドウズ3.1用 | : 市販のソフトウェア製品   | : 発売元  | : 作者/開発元         |
| : ウィンドウズNT用  | : シェアウェアのソフトウェア | : 電話番号 | : 入手先            |
| : マックintosh用 | : フリーウェアのソフトウェア | : 価格   | : 付属品            |
| : UNIX用      | : 付録CD-ROMに収録   | : 関連情報 | : ファイルサイズ/最速転送時間 |

[注]「最速転送時間」とは、28800bpsのモデムを使って圧縮なしでファイルを転送した際の、理論上で最速の転送時間を意味します。ダウンロードするときの目安としてください。ファイルサイズ(バイト)×10÷28800で計算しています。端数は切り上げています。

定番電子メ - ルソフト「ユードラ・プロ(Eudora PRO)」がバージョンアップ



ユードラ・プロ

# Eudora PRO for Windows Ver2.2-J Eudora PRO for Macintosh Ver2.1.4-J

¥ : 9,800円 ㊦ : クニリサーチインターナショナル

ここがスゴイ!

- ① メール中のURLをクリックできるアクティブURL
- ② ウィンドウズ95とNTの専用版が用意され、動作が軽くなった
- ③ ワードやエクセルなどのソフトから直接データを送信できる

電子メールソフトとしては定番のユードラ・プロ(Eudora PRO)がマッキントッシュ版、ウィンドウズ版ともにバージョンアップを果たした。マッキントッシュ版の方はマイナーバージョンアップということで大きな機能的な変更はないが、ウィンドウズ版はメールの文書中のURLをダブルクリックするとWWWブラウザが起動する「アクティブURL」という便利な機能が付いた。今回はウィンドウズ版を中心に何が新しくなったのかをお伝えしよう。なお、付録のCD-ROMに試用版が入っているのでぜひ実際にインストールして試していただきたい。

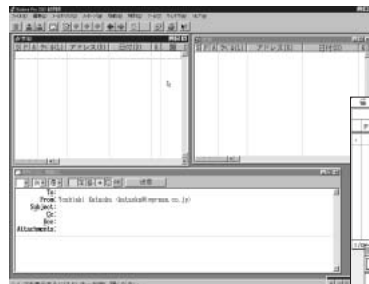
### ▶ ウィンドウズ95やNTでの動作が安定

ウィンドウズ95の日本語版が昨年11月に発売されてから半年経った。この間に着々と多くのアプリケーションソフトがウィンドウズ95に対応してきたが、電子メールソフトの定番である「ユードラ・プロ」もようやくウィンドウズ95およびNTに対応したものが出来た。ほかのソフトウェアを使いながらの処理が速くなり、動作も安定したようだ。これは常に動作させておくことの多い電子メールソフトとしては非常に重要な点である。もちろん、ウィンドウズ3.1用も別に用意されている。今回から販売されるパッケージはCD-ROM版のみとなり、ウィンドウズ版の製品にはマッキントッシュ版の試用版が、マッキントッシュ版の製品にはウィンドウズ版の試用版が同梱されている。マッキントッシュ版がウィンドウズ版と同じメニュー構造に変更されたことでマニュアルも共通になった。

### ▶ アクティブURLなどの便利な新機能

新機能として注目されるのはまず「アクティブURL」と呼ぶ機能だ。アクティブURLはネットスケープ内蔵のメール機能が搭載しているものと同様の機能で、メールの本文の中にあるURLをマウスでクリックすると、自動的にWWWブラウザがそのURLにアクセスしてくれる非常に便利な機能である。いちいちURLをコピーしてWWWブラウザに貼り付ける必要がなくなる。ただし、ネットスケープと違ってURL部分は色の変化がなく、マウスもシングルクリックではなくてダブルクリックする必要がある。

また、ウィンドウズ95の「マイクロソフトエクステンジ・クライアント」でも使われている「MAPI」という規格に対応したことにより、ワードやエクセルなどMAPIに対応したアプリケーションから直接編集データ



① ウィンドウズ版の画面



② マッキントッシュ版の画面

③ ウィンドウズ版では、メール文書中のURLをダブルクリックすると、WWWブラウザが自動的に起動する

をユードラ経由で電子メールとして送付できる。

他の機能としては、ウィンドウズ95で使われるようになったマウスの右ボタン操作が採用され、さまざまな操作が素早く行えるようになった。

### ▶ 既存ユーザーのアップグレードも簡単

既存ユーザーにとって気になるアップグレード方法だが、CD-ROMによるアップグレード専用キットが販売されるほか(3000円)、5月下旬にはクニリサーチインターナショナルのWWWサーバーから無料で配布される予定だ。フルパッケージ版をインストールする場合は、既存のバージョンのユードラ・プロがインストールされている同一のフォルダーにインストールすることで以前のデータや設定を引き継ぐ。その後、最初の起動時にシリアルキーの入力を求められるので、前のバージョンのシリアルナンバーと製品アクセスキーを入力すればよい。今回のバージョンアップによって、シリアルナンバーが自動的に1桁増えるため、更新されたシリアルナンバーは自分で控えておくが必要になる。

今回のバージョンアップに関して気になるのは、マッキントッシュ版の対応の遅れた。メニュー構造がウィンドウズ版と同じものに変更されたほかは、いくつかの問題修正が行われただけでほとんど変更がなかった。マッキントッシュ版を利用しているユーザーもかなりの数にのぼるはず。早い対応が望まれるところだ。(石橋文健)



Soft

Eudora PRO for Windows Ver2.2-J  
Eudora PRO for Macintosh Ver2.1.4-J

Ver : 2.2 (ウィンドウズ版)  
2.1.4 (マッキントッシュ版)

Phone : 06-538-9701

¥ : 9,800円 (新規ユーザー版)  
3,000円 (アップグレード版)

URL : <http://www.kuni.co.jp/eudora/>



画質の良さがウリのエプソンの低価格デジタルカメラ

# カラリオPhoto CP-100

¥ : 69,800円 ㊦ : セイコーエプソン

ここがスゴイ!

- ① 1クラス上の価格帯のモデルに匹敵する高画質
- ② フォトレタッチ機能を搭載したソフトなど5種類を添付



デジタルカメラのブームが盛り上がる中、エプソンからも低価格帯の機種が登場した。ライバルでもあるカシオのQVシリーズとの最大の違いは画質の良さでフラッシュ搭載の点だ。注文をつけたい点も多数あるとはいえず、この価格帯の中で画質の良さという点で言えば飛びぬけた実力を持つ。画質については「安かろう悪かろう」のイメージのあったデジタルカメラの世界では突出した存在である。ホームページで写真画像を使いたい人にとっても、画質を求めたい人にはおすすめできるモデルだ。

### ▶ カシオQVシリーズの有力対抗馬

パーソナル市場に向けた製品としてデジタルカメラで大成功を収めたのはもちろんカシオのQV-10だ。現在ではQVシリーズもQV-10AとQV-30のラインナップとなり、機能もさらに強化されている。QVシリーズはデジタルカメラ市場では低価格であることや液晶が付いていることなどからパーソナル向けとしてはほぼ独走状態にあるが、画質の荒さとフラッシュが付いていないことが大きな弱点と言われている。

エプソンから3月より出荷されている「カラリオPhoto CP-100」(以下CP-100)はちょうどその弱点をカバーしているデジタルカメラだ。液晶もなく、QVシリーズほどのコンパクトさもないとはいえ、画質の点に関してはQVシリーズどころか10万円を超える1クラス上のモデルと匹敵もしくは場合によっては超えていると言ってもよいほどだ。フラッシュも標準装備しているので夜や室内の暗い所での撮影もまったく問題ない。

うなデザインになっているのも実物の大きさは不釣り合いで悪い印象を与えてしまっている。だが、画質の面で同クラスと言ってもよい10万円台のデジタルカメラと比較すれば、さほど変わるわけではない。むしろそれらと比較すれば薄型で収納に関しては楽と言える。重さに関してもQVシリーズと比較すると不利だが、これも上位クラスのモデルとの比較では優るところであり、これらの点で比較対象をどこにするかは難しいところだ。

### ▶ CCDは35万画素

画質を大きく左右するCCDについてはデジタルカメラに適しているプログレッシブスキャン方式のものを採用。画素数でも約35万画素の性能を持ち、カシオのQVシリーズの25万画素と比較すると大きな差がある。

撮影したデータについては2通りのサイズを選んで記録することができる。高解像度では640×480ドット、標準解像度は320×240ドットで、前者はQV-30と、後者はQV-10Aと同等。ケースによって使い分けができるのは嬉しい。一般にホームページの画像データには大きなものは利用しないので通常は320×240ドットを利用し、どうしても必要なときだけ640×480ドットという使い分けをすれば限られた記録用メモリーも有効に利用できる。メモリーは標準で1Mバイトで、高解像度であれば16~20枚、標準解像度では32~40枚を記録することができる。もっと多くの画像を記録したければ2Mバイトと4Mバイトの増設メモリーが用意されている。これによって高解像度で最大で約100枚まで、標準解像度で約200枚まで記録可能だ。ただし、メモリーの増設は1枚のみとなっている。

### ▶ フラッシュを内蔵

カシオのQVシリーズにはないものとして、フラッシュがある。フラッシュの機能も10万円台のモデルにはほぼ必ず付いているものだ。フラッシュはもちろんセンサーによって明るさを自動検出して動作するほか、手でオンとオフを制御できる。レンズは市販のビデオカメラ用の37mmレンズが利用できる。

画像のパソコンへの読み込みはケーブル接続によるシリアル転送のみだ。読み込みに使用するソフトについては、アドビ社の「フォトショップ」など、「TWAIN」という規格に対応していれば他のソフトでも読み込める。単独でテレビへの出力はできない。

### ▶ 筐体はやや大きい

ではCP-100の基本機能から見てみよう。まず大きさだが、カシオのQV-30よりはやや大きく、コンパクトさを長所としているQV-10Aと比較してしまうと、その差は歴然としていてあまりにもCP-100が不利だ。二回り以上はあるかもしれない。CP-100が一見普通のコンパクトカメラのよ



コンパクトカメラに似た筐体



① この価格で驚くほどの画質のよさだ

### ▶ 添付ソフトウェアが充実

CP-100は同梱されているソフトウェアが充実している。CP-100から画像を読み込むために利用するほか、フォトタッチの機能を持つ「フォト・エンハンサー (Photo Enhancer)」、画像データのカatalog管理やスライドショーを作成できる「フォトファン! (Photo-Fun!)」、使用方法などを易しく解説してくれるインタラクティブマニュアルの「彩ちゃんのカラリオPhoto!! マニュアル」、撮影した画像データでポストカードを作成する「彩ちゃんのカード屋さん」、文字やBGMなどを使って画像データを管理する「彩ちゃんのデジラマ」がCD-ROMに収められている。

もっとも利用するのはもちろんフォト・エンハンサーだが、このソフトがあれば画像データの色の修正や加工なども手軽に行える。このソフトは定価でほぼ倍の「コダックDC50 Zoom」にも採用されているもので、必要十分な機能を持っている。フォトタッチは一般にはなかなか難しい作業だが、このソフトにはスマートピクスのメニューから「日光・晴れ」、「屋内」、「蛍光灯」など撮影状況にあわせたメニューを選択するだけで自動的に最適化する機能があり、初心者にも簡単に利用できる。また、「ブラウザー」という機能を使えば9段階に補正した画像を一覧表示させ、その中から好みのものを選択できる。

この価格帯でこれだけのソフトを用意しているというのも大きなウリの1つだ。QVシリーズではケーブルとデータ転送用のソフトがセットで別売りオプションになっており、画像補正の機能も持っていないが、さほど多くの機能はない。より細かく補正をかけたい場合は市販のフォトタッチ用ソフトを購入する必要がある。

### 試用レポート

#### ▶ 最大のウリは画質だ

CP-100の最大のウリは画質である。カシオのQVシリーズとはまったく比較にならないほどきれいで、完全に価格帯としては1ランク上のモデルと勝負できる。解像度についてもCP-100は2種類から選べるが、QVシリーズはQV-30が640×480ドット、QV-10Aが320×240ドットと固定されている。色合いも非常にメリハリの利いた明るい感じで、驚くほど鮮やかである。

これは10万円以上のデジタルカメラでもなかなか実現できていない優秀さだ。画質という面においては

製品データ	
外形寸法	166mm(幅)×88mm(高さ)×47mm(奥行)
重量	約310g(電池別)
電源	単3アルカリまたはNi-cd電池 4本
電池寿命	約250枚(高解像度)
画像サイズ	640×480ドット(高解像度) 320×240ドット(標準解像度)
色数	約1677万色(24bit)
内部圧縮形式	JPEG
内蔵メモリ	1MB
画像記録時間	高解像度 約9秒 / 標準 約4秒
機能	フラッシュ、セルフタイマー、 オートパワーオフなど
焦点距離	43mmレンズ相当

は抜けたコストパフォーマンスを実現している。

なるべく手軽な値段で画質の良いデジタルカメラを利用したいというのであれば、現状はこのCP-100がもっともおすすめできるモデルと言える。

#### ▶ 改良すべき面も多いが価格は魅力

ただしCP-100には改良すべき点も多い。まず、デザインがあまりにもサイズとは釣り合いが、多くの人が抵抗を感じるどころだろう。できることならデザインを変更するかもっとサイズが小さくなればよいのだが、カバー部などの作りも全体的におもちゃのような感じであまりよい印象は持てない。コストの点で難しいのは当然だが、QV-30でも搭載しているように2段階切替え程度でもズームができると、より多くの人にすすめることができるだろう。またいくつかの点で使いにくさも感じた。フォト・エンハンサーもGIF形式での保存ができないのは改良を望みたい。

デジタルカメラ市場はまだ立ち上がったばかりだ。各メーカーから今後も新製品の発売が続くのは目にみえている。正直なところ、このような状況ではなかなか推奨モデルを決めることは難しい。しかし、こと画質に関するコストパフォーマンスに限って言えば、現状はこのCP-100が現状で飛びぬけた実力を持っており、おすすめできるモデルであることは確かだ。

(石橋文健)



② 「フォトエンハンサー」には通りの画像処理機能がある

### カラリオPhoto CP-100

☎ : セイコーエプソン (エプソン  
インフォメーションセンター)

☎ : 0424-99-7133

📖 : ウィンドウ用画像編集ソフト各種  
(「フォト・エンハンサー」、「  
「フォトファン!」、「彩ちゃん  
のカラリオPhoto!! マニュアル」、「  
「彩ちゃんのカード屋さん」、「  
「彩ちゃんのデジラマ」)、ケーブル

🌐 : <http://www.epson.co.jp/epson/japanese/seihin/jouhou/peref/camera.htm>



DSU付きではもっとも低価格なターミナルアダプター

コムスターズ・プラスPCダッシュ

# Comstarz Plus PC Dash

¥ : 54,800円 日本電気

ここがスゴイ!

- ① DSU付きのTAではもっとも低価格
- ② シンプルで初心者に分かりやすい

NECの「Comstarz Plus PC Dash (コムスターズ・プラスPCダッシュ)」は、ISDN用のターミナルアダプター(TA)だ。DSU(Digital Service Unit:回線接続装置)を内蔵しているので、工事費や月々のレンタル代がかからない。これ1台でISDNへの接続はOKというまさに「モデム感覚」のターミナルアダプターだ。

▶ 23,800円のDSUを買う必要がない

アナログ電話からISDNに変更すると、月々の回線の基本料金が増えてしまうが、もう1つ気になることがある。DSUのレンタル費用だ。今まで発売されていたTAは、ほとんどがDSUを内蔵していないものであり、別にNTTからDSUを23,800円で買い取るか、月々の使用料を支払うことになる。買い取りの場合は値引きはほとんど期待できないことに加え、TAに加えてわざわざ機器を購入する手間がかかる。これもわずらわしい。レンタルの場合は、基本料金に加えて月々1,800円の料金がかかってしまう。

コムスターズ・プラスPCダッシュの価格は54,800円だ。DSUの価格を差し引けば、現在の平均的なターミナルアダプターよりも割安だ。なお、NECのホームページでは、同商品を発売キャンペーン価格として44,800円で発売している(<http://www.meshnet.or.jp/shopping/malls/livex/tusin/html/t-comp.html>)。実売価格もこれに近い水準になることが予想される。

▶ めずらしいDSU付きのTA

DSU付きのターミナルアダプターは、今までは沖電

気の「PCLINK-TA/DSU」という製品があったくらいで、あまり一般的ではなかった。昨年後半から今年にかけてISDNがブームになり、ターミナルアダプターが各社から発売されているが、どれもDSUは内蔵していない。DSU付きのターミナルアダプターのメリットとしては、価格のほかに、手軽さがある。NTTにISDN切り替えの申込みをするだけで、あとはDSUの取り付けの工事などやらずに、今まで電話をつないでいたモジュージャックに差すだけで、余計な配線をする手間も必要もない。

▶ 非同期・同期変換PPP機能

コムスターズ・プラスPCダッシュは、「同期・非同期変換PPP機能」を持っている。ターミナルアダプターがデータ信号を同期64Kbpsから非同期57.6Kbpsに変換するため、シリアルポートの速度が非同期にしか対応していなくても、同期64Kbpsでの通信を可能にする機能だ。同社の「Aterm」シリーズではおなじみの機能だが、これまでコムスターズ・プラスシリーズにはこれらの機能はなかった。非同期38.4Kbpsでの通信しかできなかったが、今回のモデルで同期・非同期変換PPP機能が搭載されたことにより、初めて64Kbpsをサポートすることになった。これで、64Kbpsの帯域をフルに活用することができる。

▶ アナログポートは1ポートのみ

コムスターズ・プラスPCダッシュにはアナログポートが1ポートしか付いていない。この点は少し惜しいところだ。電話とファックスモデムを同時に使いたいという人には、少し物足りない。ただ、コンピュータ通信と電話またはファックスしか使わないという人には、1ポートでも問題はないだろう。

また、デジタル電話や、G4ファックスなど、他のISDN機器をつなげられるようにはなっていない。NECはISDN用ターミナルアダプターとして「コムスターズ」と「Aterm」シリーズの2ラインナップをそろえているが、「Aterm」シリーズの方はアナログ2ポート、ステルスコールバックなど多く機能が搭載されている。それに比べてコムスターズ・プラスPCダッシュの方はシンプルだ。悪く言えば「拡張性がない」とも言えるが、その分低価格である。価格で割り切れる人にとっては最適な製品だろう。ホームユースならばこれで十分かもしれない。



▶ マッキントッシュのモデム設定ファイルは付属していない

残念なのは、マッキントッシュのモデム設定ファイルが付いていないことだ。マッキントッシュユーザーのための設定方法はテキストファイルに収められているが、自分でATコマンドを打ち込まなければならないのはやはり面倒だ。また、添付されているケーブルは基本的にはNECのPC-98シリーズ用のもので、IBM-PC互換機につなぐための変換コネクタが同梱されているが、マッキントッシュにつなぐための変換コネクタは付いていないので、後から買い足さなければならない。

▶ インターネット接続ソフトのための設定情報を添付

親切な点は、各種インターネット接続用ソフトのための設定情報がテキストファイルとして添付されていることだ。添付情報が付いているソフトは、ネットマネージ社の「インターネット・カメレオン」、トランス・コスモス社の「モザイク・イン・ア・ボックス」、NECの「インターネットGO!GO!」、フリーソフトの「TrumpetWinsock」、そして「マックTCP」と「マックPPP」だ。それに加え、ウィンドウズNT用と、ウィンドウズ95用のモデム設定ファイルが付いている。これらの中で「インターネット・カメレオン」と「TrumpetWinsock」については設定ファイルも添付されており、説明のとおりを組み込めば使えるようになっている。ウィンドウズ3.1のユーザーにも親切だ。

▶ 同梱されているケーブルは1種類だけ

ISDN回線を新設もしくはアナログ回線からISDN回線に変更した場合、モジュラージャックの極性が逆の場合がある。コムスターズ・プラスPCダッシュの説明書には、「スイッチを入れてTESTランプが点滅しているときには、一度スイッチを切ってまた入れ直す。入れ直したときに、まだTESTランプが点滅したままだったら機器自体の故障だが、入れ直してTESTランプが消灯した場合、INS回線に問題がある」という旨のことがトラブルシューティング形式で書いてある。NECに問い合わせたところ、この場合の「INS回線の問題」とは極性の問題を意味しているそうだ。このような場合、通常DSUとモジュラージャックをつなぐ線とは逆の極性になっているケーブルを買うか、NTTに頼んでISDN回線の極性を変えてもらう必要がある。

ちなみにNTTが発売している「MN128ISDNスター・キット」には、通常の極性になっているケーブル

と、それとは逆の極性になっているケーブルが1種類ずつ入っている。極性が逆の場合は別のケーブルを使うというわけだ。モデムと違って、DSUが付いたコムスターズ・プラスPCダッシュの場合は、それが使えなくなったら電話も使えなくなってしまう。極性が違うケーブルを1種類ずつ付けてほしかった。

## 試用レポート

▶ 設定ファイルを入れるだけの簡単セットアップ

今回試用に使ったのはゲートウェイ2000の「リパティ」だ。インプレス社内のISDN回線にはDSU付きのターミナルアダプターはつなぐことができないので、個人宅での試用となった。OSはウィンドウズ95だ。ウィンドウズ95設定ファイルが添付されているので、モデムウィザードに従ってドライバーをインストールする。「ハードウェアメーカーが提供するディスクを使用」を選び、ドライバーが入ったディスクを入れる。すると、「(64Kbps) Plus PC Dush」や「(38400bps) Plus PC Dush」というように、接続速度によってメニューが出てくる。プロバイダーの接続速度に応じて、この中から1つを選んでインストールすればよい。DTE速度(モデムとパソコンとの間の速度)は115200bpsに設定する。

▶ IJには問題なく接続に成功

IJに接続を試みた。同期64Kbps、非同期38.4Kbpsともにあっさり接続に成功した。設定に関してとくに問題はない。モデムのセッティングと同じ感覚だ。インジケータは見やすく、接続状況を的確に把握できる。

拡張性では最近のターミナルアダプターの中では劣ると言わざるを得ないが、DSUが付いてこの価格という点はやはり魅力だ。同機種を刺激として、今後はターミナルアダプターもDSUが付いた機種のラインナップの充実を期待したい。

(編集部kataoka@impress.co.jp)



①インジケータ部分は大きく見やすい



②後ろから見たところ。左から、パワースイッチ、ACアダプター用ジャック、アナログポート、シリアルコネクタ、アース、ISDN用モジュラージャック



③ウィンドウズ95のモデムウィザードの画面。接続速度によってインストールするドライバーが違ふ

NECの調査による接続確認済プロバイダー  
C&Cインターネットサービスmesh、InfoSphere、  
ASAHIネット、BEKKOAME、TokyoNetインター  
ネットサービス、TWICS、BNNインターネット、  
NetLaputa、ASK-net、at-mインターネット、  
CATNET、3Webインターネット、コムインター  
ネット、METROインターネット、ふれあいイン  
ターネット

## Comstarz Plus PC Dash



: 日本電気 (NEC)



: 0120-498563 (データコム・インフォメーション・サービス・センター)



: C&Cインターネットサービス meshウエルカムキット、PC-VANウエルカムキット、PC-VANナビゲータ、RS-232Cインターフェイスケーブル、IBM-PC互換機用9ピン変換コネクタ、ISDN用モジュラーコード



## LZHとZIPに対応した圧縮ファイルの簡単自動展開ツール

ラサ

# Lhasa

👤 : 竹村嘉人

👉 ここがスゴイ!

- ① 圧縮ファイルをアイコンに重ねるだけの簡単操作
- ② LZH(LHA)とZIPの2つの形式に対応

Lhasa(ラサ)はとにかく簡単に圧縮ファイルを展開してくれる便利なツールだ。インターネットで流通しているソフトウェアの多くは、海外はZIP形式で、国内ではLZH(LHA)形式によって圧縮されている。このLhasaはその両方に対応しており、展開の操作もデスクトップ上のアイコンに重ねるだけで自動展開してくれるという優れたものだ。Lhasaだけで、ほかに何の追加ソフトも必要ないというのも大きな魅力の1つだ。

編集部は展開ツールとしてこのLhasaをイチオシする!

### ▶ とにかくシンプルで簡単

Lhasaのおすすめの点はとにかく「簡単」なこと。ソフトウェアの組み込みや設定、展開操作も簡単で、機能も設定も無駄なものもなくシンプルだ。機能としては圧縮の機能は持たないが、インターネットから入手するソフトを利用するうえでは展開機能だけでも十分である。インターネットを利用するウィンドウズユーザーには絶対おすすめの展開ツールだ。ウィンドウズ95を使っている人ならば、ぜひともLhasaのアイコンをデスクトップに置いておくことをおすすめする。

### ▶ 必要なファイルは1つだけ

LZH形式とZIP形式の両方に対応しているながら、実行に必要なファイルが1つ(Lhasa.exe)というも他にない実にシンプルで便利な点だ。世界中に展開ツールは山ほどあれど、LZH形式とZIP形式の両方に対応したものは数少なく、そのうえどのツールも実際には両方の形式に対応させるために「LHA.EXE」や「UNZIP.EXE」など別のファイルを別途入手しなければならないし、さらに、それらのファイルをドキュメントに従って必要ファイルを自分でインストールしてやる必要があった。

Lhasaならば、本体を入手してインストールしてしまえば、ほかにいっさい追加のファイルが必要としない。それだけでLZHとZIPの両形式を解凍する機能が揃ってしまう。

### ▶ 組み込みや設定もほとんど自動

Lhasaは組み込みや設定も簡単だ。配布されているファイルをダブルクリックして実行すれば、組み込みが自動的に開始される(展開作業の必要がない)。途中で設定をするように聞いてくるが、基本的にそのまま「OK」ボタンを押せば特に困ることはないだろう。設定項目もシンプルで、たった3項目しかない(ウィンドウズ95の場合)。圧縮ファイルを展開して出力す

る先のフォルダーと、展開するごとに自動的にフォルダーを作成するかどうか、そして拡張子ZIPとLZHをLhasaと関連付けるかどうか、この3点だけだ。

標準設定では出力先フォルダーをデスクトップにし、自動的にフォルダーを作成するようになっており、デスクトップ上にアイコンを自動で作ってくれる。まさに全自動だ。

▶ 展開するには圧縮ファイルをアイコンに重ねるだけ  
展開する際の操作もいたって簡単だ。ZIP形式もしくはLZH形式のファイルをマウスでLhasaのアイコンの上に重ねるだけである。あとは勝手にデスクトップ上にフォルダーを作ってその中にファイルを展開してくれる。とにかく圧縮ファイルを展開しただけでLhasaのアイコンに重ねるだけですべて完了だ。

Lhasaは圧縮ファイルを作ることはできないし、特定のファイルだけを取り出すなどの細かい機能も持ち合わせていない。しかし、他のツールがどんどん高機能化し、肥大化して設定項目も増えていく傾向にある中、必要な機能と設定だけに絞って操作を簡素化させたことによって実にシンプルでわかりやすい貴重なツールとなっている。フリーソフトウェアなので、料金を支払う必要もないので気軽に利用できる。

初心者から上級者まで広くおすすめできる展開ツールと言えよう。おそらく、今後ウィンドウズ用の展開ツールの定番になることは間違いない。(石橋文健)

Free



👉 Lhasaのアイコン

Free

Lhasa

📄 : 0.05

👤 : 竹村嘉人

📁 : <http://www.st.rim.or.jp/~otake/>  
<ftp://ring.crl.go.jp/ring/archives/pc/akiu/Util/Archive/lhasa/>

🕒 : 124Kバイト/45秒



👉 圧縮ファイルをLhasaのアイコンに重ねるだけで展開できる



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)